

日本音楽集団

PRO MUSICA NIPPONIA



第170回定期演奏会
The 170th Regular Concert

新しい音を探る

Vol.1

Researching for New Sound

2003年1月22日[水]
午後7時開演(午後6時30分開場)
津田ホール

企画・構成:吉村七重

：主催：特定非営利活動法人日本音楽集団

：助成：平成14年度文化庁芸術団体重点支援事業

■日本音楽集団：<http://www.promusica.or.jp/> <http://www.wahoo-net.com/promusica/> E-mail office@promusica.or.jp



プレリュード(1980年) 新実徳英作曲

NIIMI Tokuhide : Prelude

[二十絃箏] 山田明美 [十七絃] 宮越圭子

箏のために作曲する時のキー・ワードは〈調絃〉だと思う。この曲では、4度を核とし、その上部に半音・全音・全音と拡がってゆく一種のモードを基本的原理としている。そしてそれらを無用に積み重ねることを避け、なるべく一音一音が美しく響くように調絃を考えた。三つの短い楽章から成り、ⅡとⅢは続けて演奏される。—初演プログラム作曲者ノートより—

この曲は1980年グループ“楽”Gakuの演奏会で委嘱初演されました。二十絃箏と十七絃でつくり出される揺れ動く音の響きが魅力的です。

(吉村七重)

プロフィール

1947年生まれ。東京芸大大学院修了。77年ジュネーヴ国際バレエ音楽作曲コンクールでグランプリ、ジュネーヴ市長賞受賞。合唱から管弦楽曲まで幅広い分野で作品多数。「創造神の眼」では94年度レコードアカデミー賞を受賞。2000年第18回中島健蔵音楽賞受賞。管弦楽作品の多くは、国内ではNHK交響楽団等の主要オーケストラにより、また海外ではフランス国立放送、ベルリン等の各オーケストラにより演奏され、それぞれ高い評価を得ている。



霊長類研究所(委嘱・初演) 野澤美香作曲

NOZAWA Mica : Primate Research Institute

テキスト・山口可久実 句集「キナバル」より

Text : YAMAGUCHI Kakumi

[細棹三味線] 箕田司郎 [太棹三味線] 山崎千鶴子

[琵琶] 首藤久美子

新しい邦楽作品とは何だろう? 邦楽器それ自体のスペックや磨き上げてきた伝統の「技・手」、大胆な抑揚と美しい抑制を、どのように拾い、何を置き去りにして新たな臨界を見るべきか。

霊長類研究所、キーワードは猿。滑稽。無頓着。人まね。突飛な驚き。幸せな孤独。そして知らんぷりを決め込み、さらりと逃げる猿。邦楽器による作品でいつも心をくすぐる事であるが、細棹・太棹・薩摩琵琶それぞれが持つ技法や「手」、伝統的な美は極力殺さぬように作曲を試みた。それぞれの楽器の役割として、ある時は「狂言まわし」ある時は「書き割り」を、そして「猿」そのものにもなり、象徴的意味合いを越えて猿の存在能力に身を寄せる。一瞬、伝統の「手」がまるでパロディに聴こえる面白みを作曲者は企んでいる。私が思いをはせるのは、システムや因習を越え人間が猿に至る夢。ここに登場する9匹の猿は境界を壊しつつ新しい邦楽のルールを画策できるだろうか?

(野澤美香)

プロフィール

作曲を入野義朗、松平頼暁に師事。国立音楽大学作曲学部卒業。86年、日本現代音楽協会新人賞入選。00年ICC国際作曲コンクール第2位受賞。国内外で楽曲が演奏される他、ダンスカンパニーからの委嘱、映画、ビデオ作品の音楽、コラボレーションなど活動は多岐に渡る。03年にはニューヨークにおける「ミュージック・フロム・ジャパン」より招聘をうけ、野坂恵子氏他により「Made on the Inside」が世界初演される。



三

魂の言葉 (2001年) 朴 銀荷作曲

Park Eun-Ha : Words of the Soul

[笙] 真鍋尚之・三浦礼美 (助演) [箏] 稲葉明徳
 [二十絃箏] I 吉村七重 II 熊沢栄利子 III 早川智子
 [十七絃] 三宅礼子

この曲は、日本音楽集団 (Pro Musica Nipponia) の委嘱作品として、2001年9月19日、津田ホールで世界初演された。私が通っているエリザベト音楽大学 (Elizabeth) の隣には、広島平和記念聖堂がある。日曜日のミサの後、私はひとけのないこの大聖堂を独り占めすることがなにより楽しい時である。ここには聖なる沈黙、という空間の中に沈黙の響きが存在するからである。この沈黙の響きは、まるで、神の言葉のように私は感じたのである。音を出さず行為だけではなく、沈黙の中にも様々な響きが存在することに気付き、この曲を書き始めた。

(朴 銀荷)

プロフィール

1970年生れ。淑明女子大学・同大学院 (ソウル)、及び、東京芸術大学大学院を修了、現在、エリザベト音楽大学大学院作曲博士課程在学中。1997年第8回吹田音楽コンクール3位。1998年第5回安益泰作曲コンクール佳作。第22回創楽会作曲コンクール最優秀賞。1999年第31回ソウル音楽祭管弦楽部門第1位。第15回名古屋文化振興賞佳作。1st Concorso Internazionale per Compositrici [S. Cecilia] 入選。2001年第6回東京国際室内作曲コンクール入選。2002年第71回日本音楽コンクール第1位、安田賞。これまで崔承俊、松下功、近藤譲の各氏に師事。

四

雪蓮花 (委嘱・初演) 石島正博作曲

ISHIJIMA Masahiro : Setsurenka

[笛] 西川浩平 [胡弓] 多々良香保里 [琵琶] 田原順子 [打楽器] 多田恵子

◆メルヘンとしての古楽

はじめに曲名の変更についてお詫び申し上げなければなりません。当初、私の発想には「西域を空から俯瞰する夜の燕」(燕聲夜曲)がありました。しかし書き進むうちに一ひとつの具体的な打楽器の音色を選択した時点で-私のなかで音像としてのイメージがはっきりと変化していることに気づき、どうしても曲名の変更をする必要を感じました。作曲者の一方的な変更を何卒ご容赦くださいますようお願い申し上げます。

新しい曲名の“雪蓮花”(セツレンカ)は嘗て西域と呼ばれたシルクロードの民が住む中央アジア東部から中国新疆(しんきょう)ウイグル自治区中央部までを東西に走る天山山脈の標高4000メートル地帯に生息する草の名である。コケ類がわずかに生えるだけのこの地帯になぜか遅く生えるこの草はまた、新疆に生きる少女たちに譬えられるそうです。作曲にあたって私はこの多様な民族が交差する土地に住む一人の伝説の少女-貧困ながらも明るく純朴な雪蓮花という名のその少女は、夢見るような黒い瞳とうねるような美しい髪で快活に旋回するダンスを踊る-をモデルとしました。楽器編成はその舞踊の時間的、空間的なイメージに基づいて撰び採られました。

踊り疲れて母の胸の中で少女が見る夢は、月のように真っ白な雪が奏でる音楽の夢でした。

遙かな時を生きてきた龍笛、胡弓、琵琶といった楽器たちの鼓動に雪蓮花の律動が折り重なる時、遠いメルヘンは今晚わたくしたちの幸福な寓話となるでしょう。その音楽のメッセンジャーである西川さん、田原さん、多々良さん、そして多田さんに作曲者の恭敬の念をこの場をお借りして申し述べさせていただきます。

(石島正博)

プロフィール

1960年生まれ。桐朋学園大学及び同研究科卒業。15歳より作曲を三善晃氏に師事。現在ラヴェルのピアノ曲全集(全音楽譜出版社・未刊)の解説・校訂を師のもとで務める。79年MUSIC TODAY国際作曲コンクール入選、第10回民音現代音楽祭委嘱、87~89フランス留学、2002年仏モントリュイ市現代音楽祭委嘱。桐朋学園大学講師。



五

星夢の舞 (2003年改訂) 吉松 隆作曲

YOSHIMATSU Takashi : Stellar Dream Dances op.89

[笛] 越智成人

[尺八] I 藤崎重康・添川浩史・渡辺淳 II 米澤浩・阪口夕山・元永拓

[三味線] 杵家七三 [琵琶] 首藤久美子

[二十絃箏] I 吉村七重・山田由紀 II 桜井智永・久東寿子・久本桂子

[十七絃] 宮越圭子・大島菜穂子・丸岡映美

[打楽器] 多田恵子・細谷一郎 (助演)

[指揮] 田村拓男

◆星夢の舞 (ほしゆめのまい) 一具

「星夢の舞 (ほしゆめのまい)」は、星から来た「夢の舞楽」七題。「プレイアデス舞曲集」や「すばるの七つ」などの〈星のための舞曲シリーズ〉の姉妹作で、旋法(モード)による旋律片と変拍子のリズムによる7つの短い舞曲から成る舞踏組曲である。

2002年春の初披露では、北斗の七つ星によせる7つの舞曲として、序之舞(じよのまい)から舞戯之舞(ぶぎのまい)までの七曲を並べたが、その後、織音(おりおん)の三つ星によせる3つの舞曲(斗々(とと)、浮流々(ふるる)、旦多(たんた))を加え、全十曲の「一具」となった。

1. 序之舞(じよのまい)

2. 流々(るる)

3. 喜々(きき)

4. 綺羅々(きらら)

5. 点々(てんてん)

6. 斗々(とと)

7. 浮流々(ふるる)

8. 旦多(たんた)

9. 丁々(てうてう)

10. 舞戯之舞(ぶぎのまい)

日本音楽集団の委嘱により2002年初春より4月にかけて作曲。5月に初演。同年12月改訂。op.89。今回は9曲目までを演奏いたします。

(吉松 隆)

プロフィール

1953年東京生まれ。交響曲および作品集CD少々あり、賞罰なし。

ホームページ：<http://homepage3.nifty.com/t-yoshimatsu/>

ごあいさつ

吉村七重

日本音楽集団は40年近い歴史の中で自分達の音楽のスタイルを作って参りました。その形をスタンダードとして、まだまだ我々の楽器の合奏形態は色々な音を探る余地があるとされます。

今回「新しい音を探る」と題しましたコンサートでは、三味線、琵琶、胡弓そして邦楽の声に注目してみました。これらの個性の強い楽器のための音楽を作ることは大変難しい事ですが、今回新曲をお願いした石鳥正博、野澤美香のお二方には、素晴らしい作品を書いて頂きましたことを感謝申し上げます。また、朴銀荷さんが、先の日本音楽コンクール作曲部門において第1位になられたことは、私達にとっても大きな喜びです。

「プレリユード」は1980年に新しい箏の二重奏の形として提案された新実徳英氏の作品。2002年5月に作曲された「星夢の舞」(吉松隆作曲)は、これから定番のレパートリーとして活躍する作品となることでしょう。

今後も様々な音楽のスタイルを探して参りたいと存じます。どうぞ一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新しい合奏モデルに向けて

榎崎洋子(ならぎき・ようこ)

武満徹の〈ノヴェンバー・ステップス〉〈エクリプス〉をはじめ諸井誠の〈対話五題〉や広瀬量平の〈渺〉など、尺八を使った作品が書かれていた1960年代から1970年代にかけて、現代邦楽の中心は、箏から尺八に移った、というのが一般的な認識だった。しかし、その後ふたたび箏が台頭してきた。騒音的な響きや不確定性を用いる前衛音楽が尺八の台頭を促したように、前衛的動向が一段落して、調性や各種旋法による表現が復権したポスト・モダンの状況は、箏を再び主導的な場に登場させる要因の一つではあるだろう。

しかし、現代における箏の台頭は逆戻りではない。大正期に始まる新日本音楽の系譜にある箏の作品は、音形や旋律進行形が先行する傾向にあったが、二十絃箏のために書かれた今日の作品は、箏の音そのものに関心を向けている。尺八は、一音に集中することを誘うが、二十絃箏は音を水平的に紡ぎ出すことを誘う。音階上の音に還元されるにとどまらず、高く繊細な音や、低く力強い音、さらにトレモロ、重音、擦奏、ピツィカート、グリッサンドなど、奏法によってさまざまに表情を変える音が二十絃箏から引き出されてきた。海外からの作品では、それぞれの自国の民族楽器からの類推でアプローチされて、さらに別の音が示唆される。つま弾かれた多様な音の一つ一つを自由に振る舞わせつつ、それらを大きな弧に向けてどのように連繫させていくかを二十絃箏は問いかける。

二十絃箏だけでなく、笙、三味線、胡弓、箏、笛に対しても、尺八のためのすぐれた現代邦楽作品がそうであったように、楽器本来の発音原理に添いつつ新しい音や表現力を引き出すアプローチが、独奏曲を中心に見られる。今は、アンサンブルよりも、独奏曲において邦楽器への関心が募っている時かもしれない。個々の楽器の中で開拓された音を、複数の楽器間でどのように出会わせ、交わせ、テクスチャを紡ぎ出すか、あるいは合奏する中で各邦楽器が新しい音や、新しいシチュエーションを発見することが、邦楽器アンサンブルに問われている。複数の邦楽器が居合わせた時、それぞれの居場所を得ていないと思わせる場面もある。西洋近代のオーケストラやアンサンブルの合奏モデルに当てはめることなく、あるいは日本の古典音楽における合奏に閉じ込めることもなく、個々の楽器から引き出されつつある音を聴き合い、それらをどのように関わらせ、触発させ合っていくか、これから注目される。

(音楽評論家)

お知らせ

2003年度日本音楽集団団員募集オーディション 2003年3月19日(水)

詳細は事務局へお問合せください。

Tel.03-3378-4741

賛助会員へのお誘い

1999年10月、特定非営利活動法人日本音楽集団が発足したのを契機に、賛助会員を募集しています。多くの方々からの支援を仰ぎ、息の長い活動を目指したく、ご協力お願い申し上げます。募集の詳細はチラシをご参照ください。

賛助会員 (五十音順)

法人.....

(株)全音楽譜出版社
(株)宮本卯之助商店
NPOトリトン・アーツ・
ネットワーク

個人.....

青戸順子
青柳 堯
安達真五
新井克輔
飯塚絹子
飯吉正山

家永和治

逸見 護
伊藤美恵子
今村厚子
今村文彦
植木真代
大木紀史

大関富枝

太田颯衣
川壁 正
岸 彰則
木津のぶ
小泉和子
後藤 隆

後藤陽子

白水昭彦
佐々木浩二
杉田和繁
関 厚雄
田原たま
堤 紀江

手塚愛子

藤山雅弘
中島靖子
中島康子
野原清子
古川羽衣山
本田 実

水野正徳

森山俊雄
渡辺京子
渡辺ハル
渡辺治子

特定非営利活動法人

日本音楽集団

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビル302 TEL03-3378-4741 FAX03-3376-2033
ホームページURL <http://www.promusica.or.jp/> E-Mail office@promusica.or.jp

箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現するために、
楽器の本質を追究した箏

十七絃箏

二十絃箏

二十五絃箏

Tokyo



Kinkodo

時を超え心に残る音づくり

有限会社 琴光堂

〒152-0003 東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL03(3792) 8481 FAX03(3792) 8437
E-mail : kinkodo@v004.vaio.ne.jp